

CASBEE-建築(新築)2024年版 海上自衛隊舞鶴海上訓練指導隊 隊庁舎		■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22				
スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	重み 係数	住居・宿泊部分 評価点	重み 係数	全体
Q1 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境			0.40	-	-	2.9
1 音環境		3.3	0.15	3.0	1.00	3.3
1.1 室内騒音レベル	—	3.0	0.42	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.7	0.42	3.1	0.50	
1 開口部遮音性能	代表的な居室は、T-2	5.0	0.70	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	—	1.0	0.30	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	45<Lr≤50の為レベル4。	-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音	床吸音材(タイルカーペット)	3.0	0.15	-	-	
2 温熱環境		2.3	0.35	2.5	1.00	2.4
2.1 室温制御		2.7	0.50	2.1	0.50	
1 室温	—	1.9	0.44	1.0	0.63	
2 外皮性能	断熱性能等級5相当	3.9	0.28	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性	MAC12 空冷ヒートポンプマルチエアコン=マルチユニット型ヒートポンプ方式(冷暖)	3.0	0.28	-	-	
2.2 湿度制御	—	1.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式	—	2.7	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		2.8	0.25	3.1	1.00	2.9
3.1 昼光利用		3.6	0.30	3.5	0.30	
1 昼光率	事務:2.02%、集(共):7.60%、集(住):①0.92%、②9.6% 按分	4.1	0.60	4.0	0.50	
2 方位別開口	—	-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御	事務、集(共)、集(住):カーテンボックス有	2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度	—	3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御	—	3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.4	0.25	3.8	1.00	3.4
4.1 発生源対策		4.0	0.52	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	室内の使用材料F☆☆☆☆(建具、家具共)、天井裏等はF☆☆☆☆	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		2.6	0.32	3.6	0.38	
1 換気量	—	3.0	0.37	3.0	0.33	
2 自然換気性能	事務:自然換気有効開口1/30以上、集(住):開閉可能な窓1/6以上	4.0	0.25	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	—	1.3	0.37	3.0	0.33	
4.3 運用管理		3.0	0.15	-	-	
1 CO ₂ の監視	—	1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	建物内全ては禁煙、敷地内は喫煙可。	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0
1 機能性		2.5	0.40	1.8	1.00	2.4
1.1 機能性・使いやすさ		2.0	0.40	1.0	0.60	
1 広さ・収納性	53.228㎡/13人=4.09㎡/人	1.0	0.50	-	-	
2 高度情報通信設備対応	—	3.0	0.50	1.0	1.00	
3 バリアフリー計画	バリアフリー法の対象外	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		2.2	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観	クロス系事務室は機密情報を取り扱う室のため窓無。	1.0	0.25	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	—	2.0	0.25	-	-	
3 内装計画	—	3.0	0.49	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	便所ビニル床シート、壁ケイカル板。外装 複層仕上塗材 耐候形。	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	特定建築物に非該当。便所内清掃ブース、掃除流し。	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.6	0.30	-	-	3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	耐震安全性の分類Ⅱ類(1.25)	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	加圧給水ユニットに防護架台有。室外機に防護架台有。	4.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	鉄筋コンクリート	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防水型複層塗材E	3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニル床シート20年	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	給気・還気・外気・廃棄ダクトは、スパイラルダクト、亜鉛めっき鋼板	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	SGP、SUS、VP	3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	空冷ヒートポンプパッケージエアコン	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	節水器具、配管系統区分、汚水貯留タンク有、受水槽2層式・蛇口	5.0	0.20	-	-	
3 電気設備	重要設備系の受変電の2重化、電源車接続時に利用可能な配線	4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	—	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性		3.3	0.30	3.8	1.00	3.4
3.1	空間のゆとり		4.6	0.23	4.6	0.50	
1	1 階高のゆとり	事務:2F階高4.1m。集(住):3F階高3.75m	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	2 空間の形状・自由さ	建物全体0.227、住居0.204	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2	3.2 荷重のゆとり	事務室:2800N/m ² 、居室:1800N/m ²	3.0	0.23	3.0	0.50	
3.3	3.3 設備の更新性		3.0	0.54	-	-	
1	1 空調配管の更新性	中央式空調設備を持たない。	3.0	0.20	-	-	
2	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
3	3 電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
4	4 通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
5	5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
6	6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3	Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.2
1	1 生物環境の保全と創出	既存植栽を極力残した計画。道路側へ高木配置し地域住民へ配	3.0	0.30	-	-	3.0
2	2 まちなみ・景観への配慮	道路から壁面を離し圧迫感軽減。道路側に植栽保存で地域景観継	4.0	0.40	-	-	4.0
3	3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50	-	-	
3.2	3.2 敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR	LR 敷地の利用・環境配慮		-	-	-	-	3.5
LR1	LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.4
1	1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.49	4.7	0.20	-	-	4.7
2	2 自然エネルギー利用(直接利用)	—	2.7	0.10	-	-	2.7
3	3 設備システムの高効率化	事務所BEI=0.45、集合住宅(専用)BEI=0.84	3.4	0.50	-	-	3.4
	集合住宅以外の評価		4.2	-	-	-	
	集合住宅の評価		1.0	-	-	-	
4	4 効率的運用に向けた取組み		2.6	0.20	-	-	2.6
	集合住宅以外の評価		2.6	0.76	-	-	
4.1	4.1 モニタリング	太陽光発電設備評価	2.0	0.40	-	-	
4.2	4.2 運用管理体制	—	3.0	0.40	-	-	
4.3	4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	—	3.0	0.10	-	-	
4.4	4.4 コミッショニングの推進	—	3.0	0.10	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	0.24	-	-	
4.1	4.1 モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
4.2	4.2 運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
LR2	LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.5
1	1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	1.1 節水	事務・集(共):主要な水栓は自動水栓、節水型大便器・小便器採	4.0	0.40	-	-	
1.2	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	1 雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
2	2 雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	2 非再生性資源の使用量削減		3.8	0.60	-	-	3.8
2.1	2.1 材料使用量の削減	—	2.0	0.10	-	-	
2.2	2.2 既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
2.3	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
2.4	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン、合板、タイル、断熱材	5.0	0.20	-	-	
2.5	2.5 持続可能な森林から産出された木材	内装材の腰壁に使用。	4.0	0.10	-	-	
2.6	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+吹付断熱+LGS+仕上材(一部モルタル+タイル有)、OA707有。	5.0	0.20	-	-	
3	3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	3.1 有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
3.2	3.2 フロン・ハロンの回避	—	3.0	0.70	-	-	
1	1 消火剤	—	-	-	-	-	
2	2 発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.50	-	-	
3	3 冷媒	冷媒R32	3.0	0.50	-	-	
LR3	LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.5
1	1 地球温暖化への配慮	WLC排出率71%	4.1	0.33	-	-	4.1
2	2 地域環境への配慮		3.6	0.33	-	-	3.6
2.1	2.1 大気汚染防止	オール電化ビル	5.0	0.25	-	-	
2.2	2.2 温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
2.3	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
1	1 雨水排水負荷低減	京都府1ha以上の開発行為に当たらない為基準なしでレベル3	3.0	0.25	-	-	
2	2 汚水処理負荷抑制	京都府 水質汚濁防止法に基づく排水基準に関する条例有	3.0	0.25	-	-	
3	3 交通負荷抑制	仮想閉空間外の確認申請上同敷地内に駐輪スペース有	5.0	0.25	-	-	
4	4 廃棄物処理負荷抑制	ゴミ種類・量を推計し、分別回収容器設置、ビン・缶の減量化対策済。	3.0	0.25	-	-	
3	3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	1 騒音	規制対象建物以外のためレベル3	3.0	1.00	-	-	
2	2 振動	対象外	-	-	-	-	
3	3 悪臭	対象外	-	-	-	-	
3.2	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	1 風害の抑制	風害対策に対する要請がないためレベル3	3.0	0.70	-	-	
2	2 砂塵の抑制	対象外	-	-	-	-	
3	3 日照阻害の抑制	工業地域で日影規制なしのためレベル3	3.0	0.30	-	-	
3.3	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない	3.0	0.70	-	-	
2	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	対策なし	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2024年版

海上自衛隊舞鶴海上訓練指導隊 隊庁舎

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	-	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○	-	-	-	○	○	○	-	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	○	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	5.0	5.0	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		-	2.0	3.0	-	1.0	-	-	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		2.0	3.0	-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0		1.0	1.0	1.0	3.0	3.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値 0.5	η AC 0.9	η AH	
昼光率					
自然換気有効開口面積率 建物全体:0.030、住居:0.191					

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収容性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用(直接利用)

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

執務スペース	4.1㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡	
コンセント容量	0.0 VA/㎡						
天井高	事務室:.m						
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%				
想定耐用年数	65 年						
想定必要間隔	20 年						
想定必要間隔	20 年						
想定必要間隔	15 年						
階高	事務:2F m						
壁長さ比率	建物全体0.227、住居0.204						
床荷重	事務室: N/㎡						
外構緑化指数	60%	建物緑化指数	0%				
空地率	90%	水平投影面積率	2%	地表面対策面積率	59%	舗装面積率	38%
BPI/BPI _m	0.49	断熱等性能等級	等級5 相当				
影響範囲の割合	0.0%	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%		
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%		
		太陽光	8.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kWh
BEI/BEI _m	再エネ有	0.45	無	0.45	オフサイト再エネ有	-	〇〇GJ/年
一次エネルギー削減率	再エネ有	#####	無	#####			-
雨水利用率	0.0%						
特定調達品目	再生プラスチック、含 エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-			
使用比率	47.0%						
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)						
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)						
オゾン層破壊係数(ODP)	32	地球温暖化係数(GWP)	675				
見付面積比	60% 隣棟間隔指標R _w 6.69						
地表面対策面積率	60.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%		
見付面積S _b	910㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	105.07 m	基準高さH _b	14.27 m		
緑地	6.686㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
				再帰性反射対策面	㎡		㎡